

平成29年2月23日

平成29年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

市町村名	あま市	
連絡先	部署名	企画財政部 企画政策課
	担当者役職・氏名	主査 青木勇二
	電話番号	052-444-1712
	FAX番号	052-444-0982
	メールアドレス	kikaku@city.ama.lg.jp

○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ：交通不便地対策

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。

現在本市では、市内公共施設を中心に巡回するコミュニティバスの試行運行を実施しているが、市内全域を網羅したルートではないため、付近にバス停のない地区の住民からは要望が出ている。しかしながら、現状の手法による運用では、仮にバスルートの延伸や増発を実施した場合、費用負担に対して利用率が相応のものとなる予測は立てづらく、すべての要望に応えることは困難な状況である。

将来的に自動走行システムが実用化されれば、現状のコミュニティバスに代わり、自動走行を活用したデマンド交通システムによる公共交通の提供が可能となるのではないかと考えている。

本市が実証実験場所として提案する、あま市七宝焼アートヴィレッジは、当該コミュ

ニティバスのターミナルとしても機能しており、施設内駐車場及び道路を活用して本事業を実施されることで、施設周辺地域における当該技術に対する社会受容性を高めるとともに、自動走行システムを活用したデマンド交通システムの事業化に向けた検討材料になることを期待している。

また、当施設は平成28年度より、産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）における自動走行車のテストコースとして、休館日の施設内駐車場及び道路を開放しており、国立大学法人名古屋大学、アイサンテクノロジー株式会社、株式会社ティアフォーによる使用実績がある。

(2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

現在本市では、平成28年2月に策定した「あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「シティプロモーションの推進」として、「自動走行実証実験の走行ルートに市内の道路や施設を使用することをきっかけに市の魅力を幅広く発信」することとしている。

また、平成29年3月策定予定の第1次あま市総合計画後期基本計画において、「企業・新産業などの誘致をすすめる」という施策に「自動走行に関連する企業・事業者の参画・誘致も推進」と位置付ける予定である。

当面の間、本事業はもとより、産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）を、交通不便地対策や観光振興対策として実施しつつ、将来的には自動走行技術に関する取組実績やそれにより得られる関連機関との協力関係を活用して、関連する企業・事業者の参画・誘致をすすめていきたいと考えている。

なお本市では、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、市職員や市民、地域交通事業者により構成される「あま市地域公共交通会議」を設置しており、公共交通に関する施策を具体化するための検討体制を備えている。

○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

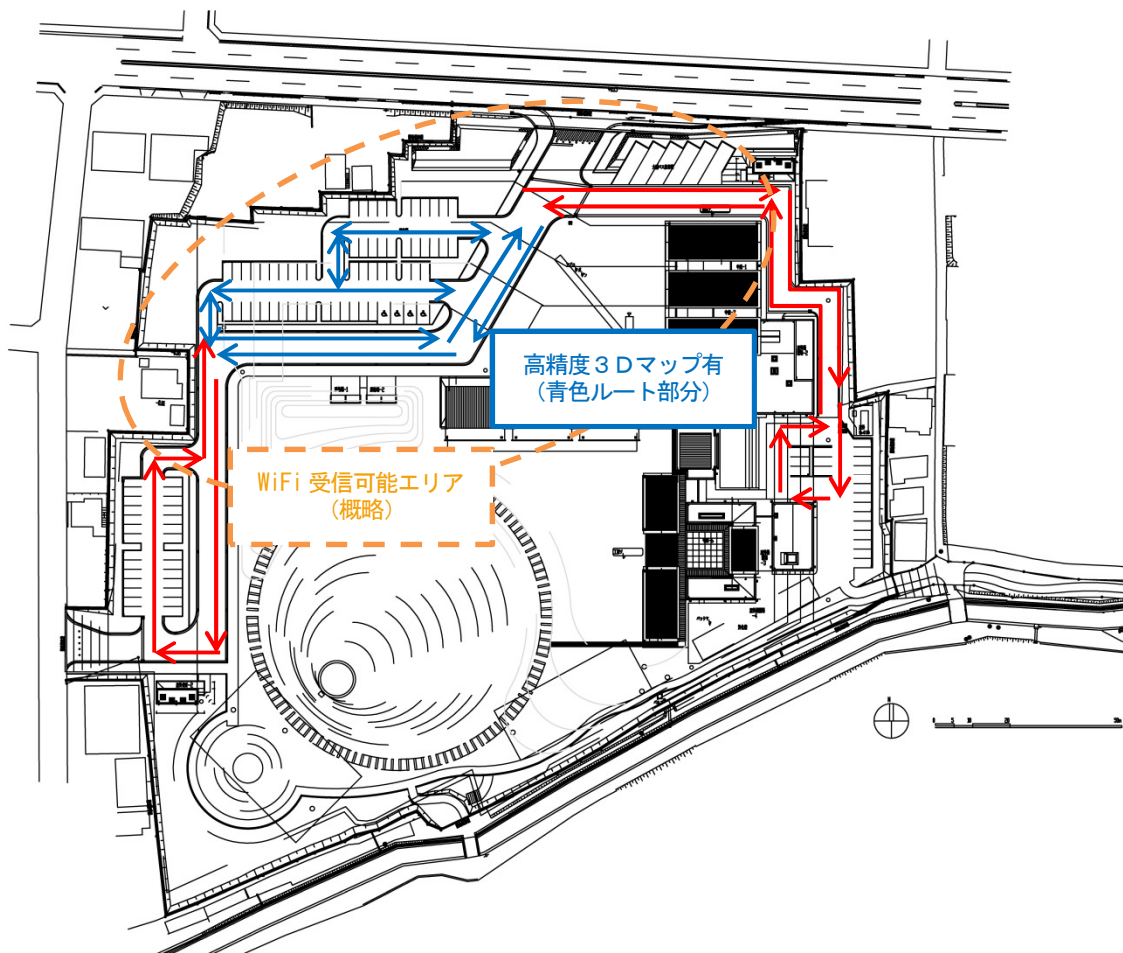
以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

1 ルート（起点→終点）

あま市七宝焼アートヴィレッジ内駐車場及び道路

毎週月曜日の休館日には、出入口を封鎖しスタッフを配置することで、閉鎖空間道路を提供することが可能。

2 ルート（地図）



3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

(1) あま市巡回バスのターミナルとして機能

運行日：毎週火・金・日曜日

運行系統：西部巡回ルート 左回り7便・右回り7便

東部巡回ルート 左回り3便・右回り3便

(2) 周辺地域の状況

名鉄津島線「七宝」駅より徒歩約 25 分、名鉄バス「安松」バス停より徒歩約 15 分と、公共交通機関による市外からの交通アクセスに恵まれている地域とは言い難い。農地と住宅地が混在する市街化調整区域にありながら、県道あま愛西線沿いは飲食店や各種店舗が立ち並び、車による市外からの流入人口の多い地域でもある。

4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	1 周約 7 5 0 m
車線数	1 車線（一部片側 1 車線、中央分離帯なし）、白線あり
道路構造	歩車分離（縁石、ガードレールなし）、勾配ほとんどなし
道路種別	公共施設内道路
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	休館日であれば閉鎖可能
交差点	丁字路 4 か所
起点・終点	任意の場所に設定可能 駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能
その他特記事項	開館時においては、常時来場者・巡回バスの流入がある。 コース全域にインターネットによる遠隔監視が可能なネットワークカメラあり。 コース一部に公衆無線 LAN（Wi-Fi）環境あり。 警備会社によるセキュリティを備えた車庫あり。

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

- (1) 道路の様子（主要地点数カ所）
- (2) 起点、終点場所（駅、公共施設等）
- (3) 車両待機場所（起点・終点場所と異なる場合）



6 高精度3Dマップの有無

一部有（あま市モデルにおける体験試乗会及びテストコースの利用実績あり。）

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

(1) 平成28年度実績

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の実施及びそれに伴う連携協定の締結。また、当該事業におけるテストコースを、国立大学法人名古屋大学、アイサテクノロジー株式会社、株式会社ティアフォーが使用した実績あり。

(2) 平成29年度予定

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の継続実施による、自動走行テストコースの提供及び一般向け体験試乗会の実施。

予算額537千円（報償金26千円、消耗品費11千円、事務事業委託料500千円）

8 その他参考資料（ある場合は添付）

資料1 産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）

平成 29 年 2 月 23 日

平成 29 年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

市町村名	あま市	
連絡先	部署名	企画財政部 企画政策課
	担当者役職・氏名	主査 青木勇二
	電話番号	052-444-1712
	FAX 番号	052-444-0982
	メールアドレス	kikaku@city.ama.lg.jp

○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ：高齢者対策

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。

本市の平成 22 年時点での高齢化の進展は、全国平均よりも遅れているものの、65 歳以上人口の割合は年々高まっており、人口ピラミッドの構造や若年女性人口の割合・減少傾向からみても、高齢化は今後も進展していくものと予測される。こうした中、本市では、引き続き生活支援体制の整備、在宅医療・介護連携の推進、認知症の総合支援に取り組むことで、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で安心して生活できるよう努めているところである。

しかしながら今後、核家族化の進展や高齢者世帯の増加により、交通手段を持たない高齢者の生活利便性は、公共交通機関が充実しているとは言い難い本市においては益々深刻な問題になると思われ、自動走行を活用したサービスは、将来的な高齢者対策に欠

かすことのできない技術になると考えている。

本市が提案する二ツ寺親水公園がある二ツ寺地区は、市の北端に位置し、65歳以上の人口及び構成率が、市内でも比較的高い地域である（平成28年9月1日現在）。また、当該施設には特別養護老人ホームが隣接しており、このホームのケアハウス入所者又はデイサービス利用者に、本事業のモニターとして参加していただくことができれば、高齢者の中でもとりわけ介護を要する方々に特化したニーズが把握できるとともに、地域の高齢者が将来の生活に希望を感じるきっかけとなることができないかと期待している。

(2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

現在本市では、平成28年2月に策定した「あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「シティプロモーションの推進」として、「自動走行実証実験の走行ルートに市内の道路や施設を使用することをきっかけに市の魅力を幅広く発信」することとしている。

また、平成29年3月策定予定の第1次あま市総合計画後期基本計画において、「企業・新産業などの誘致をすすめる」という施策に「自動走行に関連する企業・事業者の参画・誘致も推進」と位置付ける予定である。

当面の間、本事業はもとより、産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）を、交通不便地対策や観光振興対策として実施しつつ、将来的には自動走行技術に関する取組実績やそれにより得られる関連機関との協力関係を活用して、関連する企業・事業者の参画・誘致をすすめていきたいと考えている。

なお本市では、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、市職員や市民、地域交通事業者により構成される「あま市地域公共交通会議」を設置しており、公共交通に関する施策を具体化するための検討体制を備えている。

○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

1 ルート（起点→終点）

ニツ寺親水公園施設内道路（あま市ニツ寺西高須賀1番地）

一般利用者に向けて事前に予告（ウェブサイト、予告看板等）した上で、出入口を封鎖しスタッフを配置することで、閉鎖空間道路を提供することが可能。

2 ルート（地図）



3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

名鉄津島線「木田」駅より約 2.5 km、徒歩約 30 分。市巡回バス最寄バス停「美和総合福祉センターすみれの里」より約 1.9 km、徒歩約 23 分と、公共交通機関によるアクセス

は非常に悪い。周辺は農地が大半を占める市街化調整区域であるものの、本施設への道路環境は比較的良く、施設北側には特別養護老人ホームが隣接している。

4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	1周約540m
車線数	片側1車線、白線なし
道路構造	車道のみ、勾配ほとんどなし、舗装厚3cm
道路種別	公共施設内道路
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	事前予告の上、閉鎖可能
交差点	なし
起点・終点	任意の場所に設定可能。 北川駐車を駐停車場所、モニター調査実施場所として確保可能。
その他特記事項	公園（遊歩道・休憩所等）、バーベキュー場、グランドゴルフ場あり。通常一般利用客が随時利用可能となっている。

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

(1) 道路の様子（主要地点数カ所）



全体図（各地点番号は以下の写真番号を表す）



①



②



③



④



⑤



⑥

(2) 起点、終点場所（駅、公共施設等）

(3) 車両待機場所（起点・終点場所と異なる場合）

6 高精度3Dマップの有無

無

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

(1) 平成28年度実績

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の実施及びそれに伴う連携協定の締結。また、当該事業におけるテストコースを、国立大学法人名古屋大学、アイサテクノロジー株式会社、株式会社ティアフォーが使用した実績あり。

(2) 平成29年度予定

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の継続実施による、自動走行テストコースの提供及び一般向け体験試乗会の実施。

予算額 537 千円（報償金 26 千円、消耗品費 11 千円、事務事業委託料 500 千円）

8 その他参考資料（ある場合は添付）

資料 1 産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）

平成 29 年 2 月 23 日

平成 29 年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

市町村名	あま市	
連絡先	部署名	企画財政部 企画政策課
	担当者役職・氏名	主査 青木勇二
	電話番号	052-444-1712
	FAX 番号	052-444-0982
	メールアドレス	kikaku@city.ama.lg.jp

○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ：七宝焼アートヴィレッジを核とした観光振興対策

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。

あま市七宝焼アートヴィレッジは、「尾張七宝」として伝統的工芸品の指定を受け、人々に親しまれてきた「七宝焼」について、見て・触れて・学んで・体験することができる総合施設であり、あま市観光協会も事務局を置くなど、本市における観光振興の拠点となる施設である。しかしながら当施設は、最寄りの名鉄七宝駅から約 2.1 km、徒歩で約 25 分の距離に位置し、公共交通機関を利用したアクセスが良好とは言い難く、市外からの来場者を呼び込む上での懸念材料となっている。

そこで今回の事業を、名鉄七宝駅から七宝焼アートヴィレッジまでの公道で実施することで、将来的に自動走行技術を活用した、駅から当施設までの送迎サービスを実施することができないかと考えている。これが実現すれば、当施設の弱点である公共交通機

関を利用したアクセス面をカバーするとともに、本市の観光拠点をより積極的に内外にアピールし、ひいては市全体の観光事業の目玉として注目を集めることを期待している。

(2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

現在本市では、平成28年2月に策定した「あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「シティプロモーションの推進」として、「自動走行実証実験の走行ルートに市内の道路や施設を使用することをきっかけに市の魅力を幅広く発信」することとしている。

また、平成29年3月策定予定の第1次あま市総合計画後期基本計画において、「企業・新産業などの誘致をすすめる」という施策に「自動走行に関連する企業・事業者の参画・誘致も推進」と位置付ける予定である。

当面の間、本事業はもとより、産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）を、交通不便地対策や観光振興対策として実施しつつ、将来的には自動走行技術に関する取組実績やそれにより得られる関連機関との協力関係を活用して、関連する企業・事業者の参画・誘致をすすめていきたいと考えている。

なお本市では、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するため、市職員や市民、地域交通事業者により構成される「あま市地域公共交通会議」を設置しており、公共交通に関する施策を具体化するための検討体制を備えている。

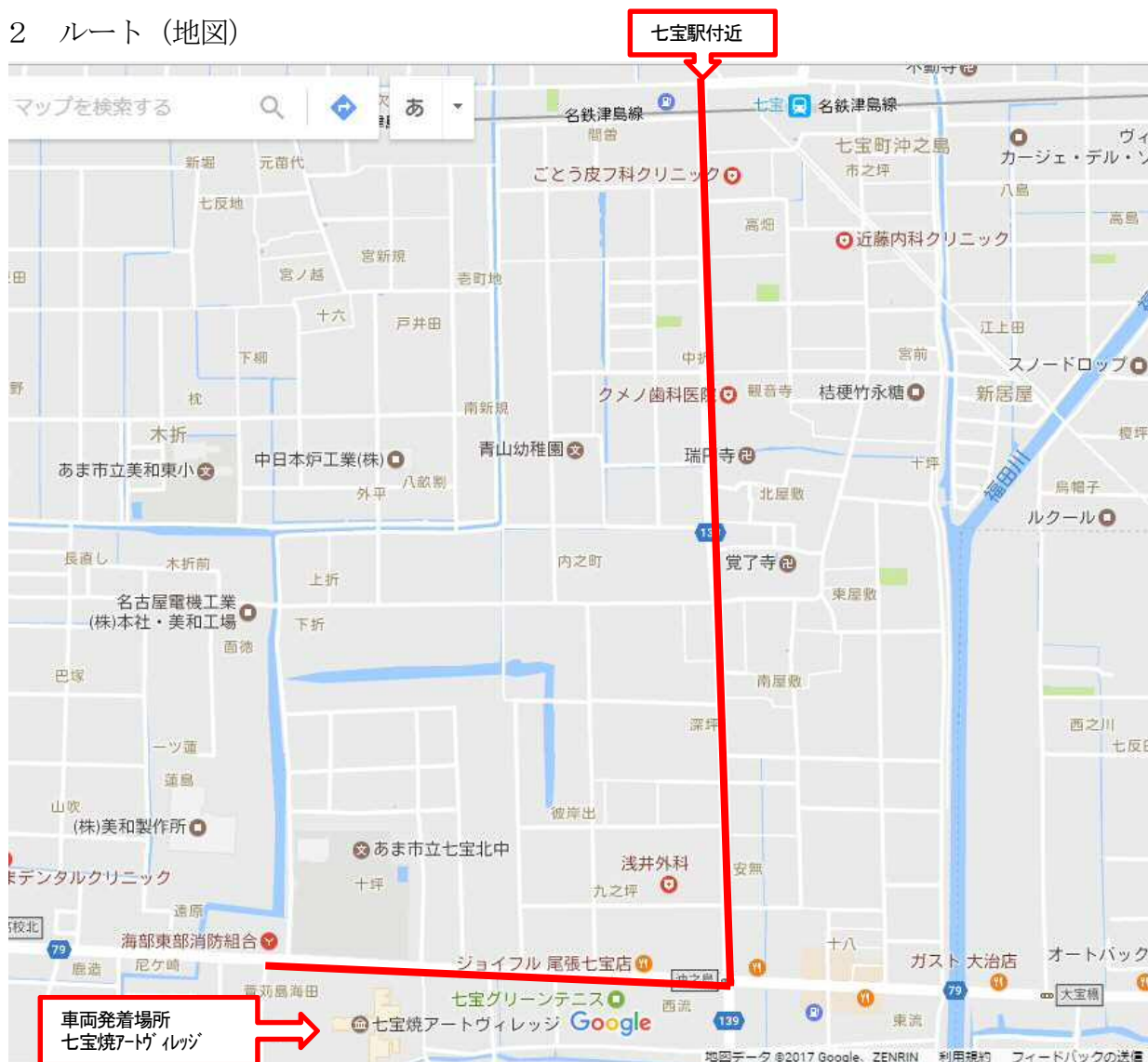
○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

1 ルート（起点→終点）

名鉄七宝駅～あま市七宝焼アートヴィレッジ（あま市七宝町遠島十三割 2000 番地）

2 ルート（地図）



3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

(1) あま市巡回バス（試行運行）全系統のルートに設定

運行日：毎週火・金・日曜日

運行系統：西部巡回ルート 左回り7便・右回り7便

東部巡回ルート 左回り3便・右回り3便

(2) 周辺地域の状況

名鉄津島線「七宝」駅より徒歩約25分、名鉄バス「安松」バス停より徒歩約15分と、公共交通機関による市外からの交通アクセスに恵まれている地域とは言い難い。農地と住宅地が混在する市街化調整区域にありながら、県道あま愛西線沿いは飲食店や各種店舗が立ち並び、車による市外からの流入人口の多い地域でもある。

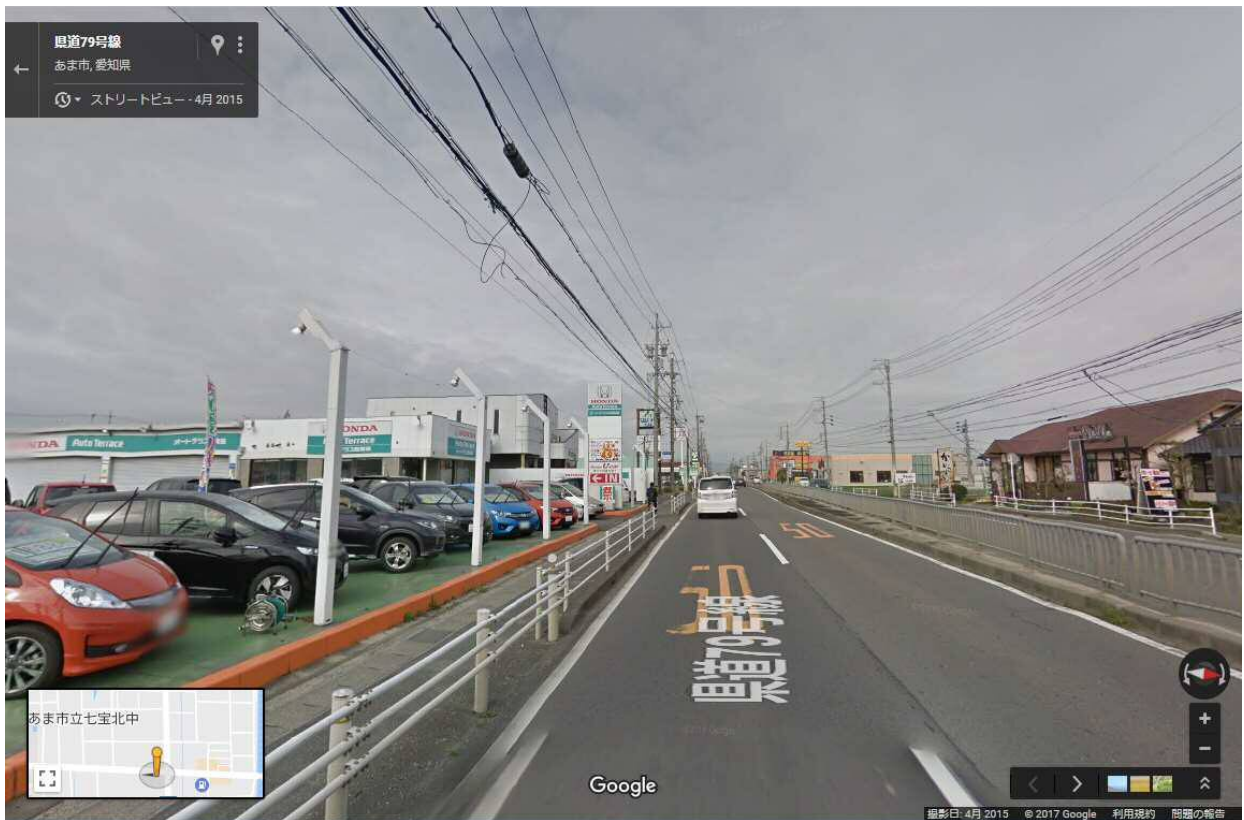
4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	片道約2.0キロ
車線数	片側1車線（中央分離帯なし）
道路構造	歩車分離（縁石あり、一部ガードレールあり）、勾配ほとんどなし
道路種別	県道139号線及び県道79号線
トンネル、踏切	名鉄津島線踏切あり、トンネル無し
交通量	全体的に少ないが、朝夕は沖之島交差点付近に渋滞が発生
交差点	右左折する四差路1か所
起点・終点	起点：七宝駅付近（駐停車場所の確保困難） 終点：七宝焼アートヴィレッジ（駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能）
その他特記事項	あま市巡回バス（試行運行）のルートになっている。 近隣に学校があり、児童・生徒の登下校ルートになっている。 以上に加え、本線は市内の幹線道路といえる路線である。

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

(1) 道路の様子（主要地点数カ所）

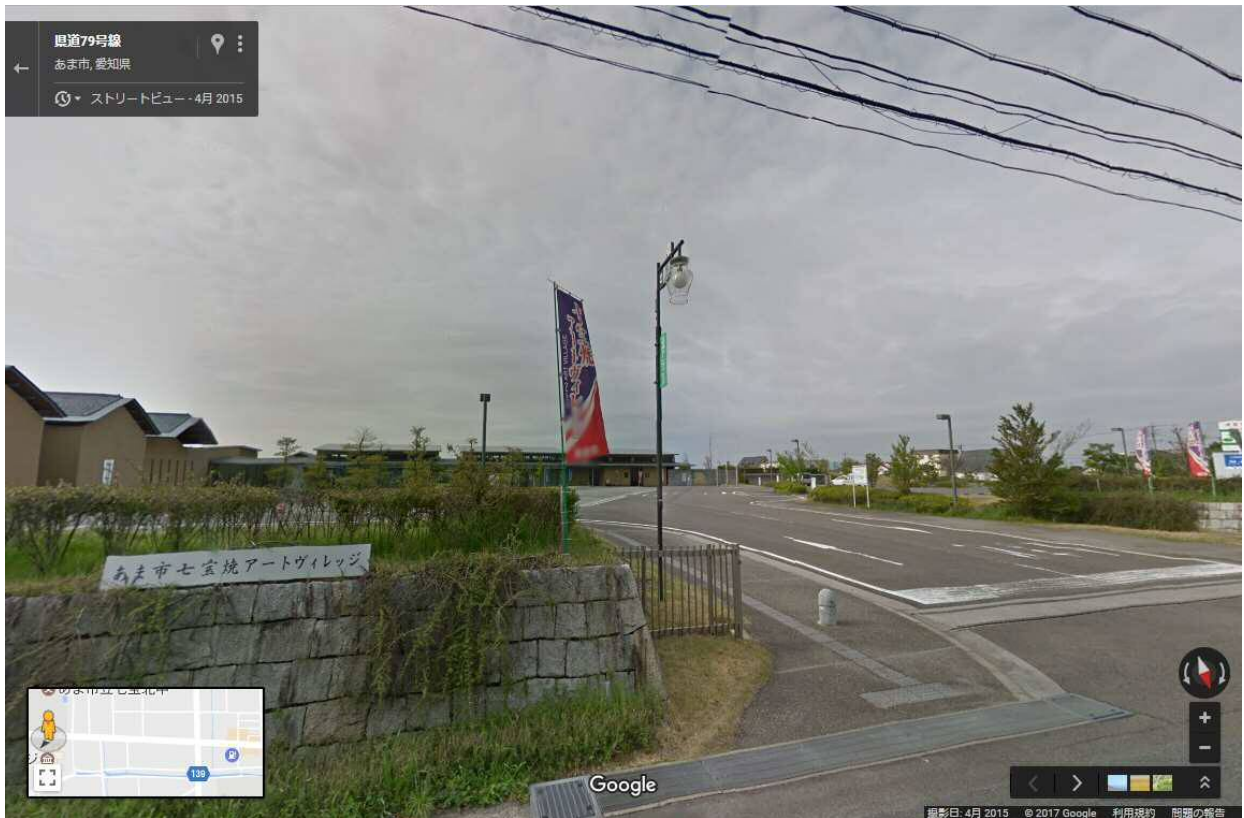




(2) 起点、終点場所（駅、公共施設等）



七宝駅付近



七宝焼アートヴィレッジ

(3) 車両待機場所 (起点・終点場所と異なる場合)



七宝焼アートヴィレッジ

6 高精度3Dマップの有無

有（提案ルート全域にあり。平成28年度実証実験ルート。）

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

(1) 平成28年度実績

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の実施及びそれに伴う連携協定の締結。また、当該事業におけるテストコースを、国立大学法人名古屋大学、アイサテクノロジー株式会社、株式会社ティアフォーが使用した実績あり。

(2) 平成29年度予定

産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）の継続実施による、自動走行テストコースの提供及び一般向け体験試乗会の実施。

予算額537千円（報償金26千円、消耗品費11千円、事務事業委託料500千円）

8 その他参考資料（ある場合は添付）

資料1 産官学連携自動走行実証実験促進事業（あま市モデル）